



コロナ時代を生き抜く！ アメリカ市場の実情と越境 EC 活用へのヒント ～令和3年度第1回海外経済セミナー～

(一財)自治体国際化協会交流支援部経済交流課 主査 森下 祥嗣 (広島市派遣)

第1回海外経済セミナー開催

2021年5月27日(木)、日本とアメリカ(ニューヨークおよびロサンゼルス)をオンラインでつなぎ、「令和3年度第1回海外経済セミナー」を開催しました。

本セミナーでは、「コロナ時代を生き抜く！アメリカ市場の実情と越境 EC 活用へのヒント」をテーマに、アメリカ国内の食ビジネスの実情や、越境 EC を始めとしたアメリカ国内への販路開拓について、第一線で活躍されている方々を講師としてお迎えし、先進事例なども交えながらご講演いただきました。

セミナープログラム (2021年5月27日(木)開催)
講演1「コロナ禍のニューヨーク生活」 (一財)自治体国際化協会 ニューヨーク事務所 所長補佐 廣澤 由貴
講演2「アメリカ市場の実情」 日本食文化振興協会 (JFCA) 専務理事/事務局長 二見 義之氏
講演3「アメリカ越境 EC の実情と販路開拓の可能性」 楽天グループ株式会社 グローバルアドディビジョン パブリックアカウント課グローバルアカウントチーム アシスタントマネージャー 大倉 エリ 氏

コロナ禍のニューヨーク生活

昨年8月のコロナ禍の真っ只中にニューヨークへ赴任したクレアニューヨーク事務所の職員が、コロナ禍におけるニューヨークの生活について、現地から住民目線でお伝えしました。

講演では、アメリカ、特にニューヨークではワクチン接種が進んでいること、それに伴って飲食店の席数や営業時間の制限を始めとしたさまざまな制限が徐々になくなってきており、街にも人が戻ってきていることなどを昨年と現在の写真を比較しながら説明しました。一方で、まだワクチン未接種者が残っていることから、スポーツ

会場や大学などにおいて接種者と未接種者の扱いが区別されるシーンもあるようで、ニューヨークの社会活動が試行錯誤しつつも、正常化の方向に向かって動いていることが窺われました。

街の雰囲気と各種制限について

街の雰囲気はワクチンの普及及び気温上昇により4月以降開放的な雰囲気



昨年8月(日曜日)



先週(平日)

昨年と現在のニューヨークの様子

アメリカ市場の実情

ロサンゼルス在住の日本食文化振興協会(JFCA)二見氏より、アメリカの日本食市場の実情についてご講演いただきました。

1) 日本食を支える市場

アメリカの人口統計を基に、人種・民族構成や、平均世帯年収について、また、日本食がよく消費されている地域について、地図などを用いてわかりやすくご説明いただきました。

2) 日本食を取り巻く(アメリカの食品販売)環境の変化

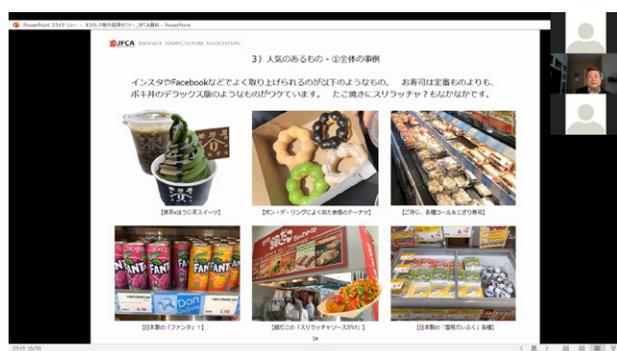
レストラン、ファストフードなど業態により明暗が分かれたこと、ロックダウンによる世界的な巣ごもり需要の増加に伴う輸送コンテナの不足により世界的な物流の停滞が発生していることや、近年、アメリカにおいて厳格化が進む食品安全規制といった、最新事情もご紹介いただきました。

3) コロナ禍の収束に向けて (アメリカの消費者の動向)

ワクチン接種を追い風として、アメリカ市場が驚異的な回復を見せていることをご説明いただきました。また、世代による嗜好の差についてご解説いただいたのち、現地で人気のある日本の食品をご紹介いただきました。

4) 輸出・販路開拓支援を目的とした事業の立案に際して

アメリカ市場の具体的な販路を示された後、事業の立案の概要についてご説明いただきました。JFCA は当協会のプロモーションアドバイザーであり、自治体に派遣することも可能ですので、輸出・販路開拓に取り組まれる際はぜひご相談ください。



アメリカで人気の日本食品

アメリカ越境 EC の実情と販路開拓の可能性

これまで数多くの国に滞在し、現在は主にアメリカを対象にデジタルを中心としたプロモーションや越境 EC などの事業を担当している、楽天グループ株式会社の大倉氏より、アメリカ越境 EC の実情と販路開拓の可能性についてご講演いただきました。

1) ウィズコロナにおける世界の EC シフトの流れ

世界の EC シフトの流れについて、国によって伸び率の差はあるものの、ステイホームを余儀なくされたことにより、オンラインでモノを買おうという動きが進んだと解説されました。

2) アメリカ国内における EC の現状

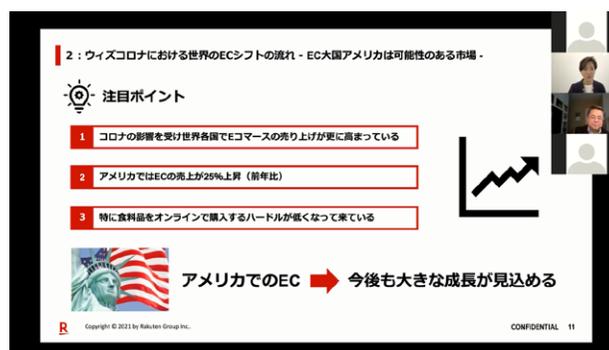
アメリカの人気 EC プラットフォームについて、アマゾン商品は商品数が非常に多く、ウォルマートは食料品が多いなど、データを用いてご説明いただきました。また、日本同様新型コロナの影響によりウーバーイーツなどのデリバリーサービスも利用される機会が増えているとのことでした。

3) アメリカで EC 市場を開拓するために

海外販売について、①海外在庫×オフライン、②海外在庫×オンライン、③国内在庫×オンライン (越境 EC) の3つのパターンに分けてご説明いただきました。それぞれメリット、デメリットはあるものの、①、②は参入障壁が高いため、まずは③から始めた方が良いとのことでした。

また販売戦略として、Market-In と Product-Out のそれぞれのメリットとデメリットについてご説明いただきました。

さらに、EC への参入に際して、「ライセンスや認証を軽く考えている人もいるが、特に体に入れる食品についてはしっかりと対応しなければ、訴訟大国のアメリカでは会社が潰れるリスクがある」と、事業者へ注意を呼びかけました。



アメリカ EC 市場の有望性

最後に

今回のセミナーは総勢 122 人の方にご参加いただきました。アンケートでは、「どの講演も非常に興味深く、参考になった。」「本当に面白かった。また同様のセミナーがあればぜひ参加したい。」など、これまで以上に高い評価をいただきました。クリア経済交流課ではこれからもニューヨーク事務所を始めとする各海外事務所とも連携し、自治体に役立つ経済情報を提供してまいりますので、ぜひご活用ください。